

〈診療技術部門〉

- ・ 薬剤科
- ・ 臨床検査科
- ・ 視能訓練室
- ・ 臨床工学科
- ・ 放射線技術科
- ・ リハビリテーション技術科
- ・ 栄養管理科

薬剤科

1 科長紹介

薬剤科長 渡辺 新吉

2 部署別職員数

薬剤師 14 人（うち会計任用職員 1 名） （男性 7 人女性 7 人）

3 令和 5 年度総括

家族、職員のコロナ罹患で職員数減による業務量増大に見舞われましたが、業務の現状維持に努めました
病棟薬剤業務、薬剤管理指導業務も例年どおり実施し、チーム医療にも積極的に参加した。

後発医薬品数の拡大による、オーソライズドジェネリック（AG）バイオシミラーの採用推進に努めました。

4 令和 5 年度診療実績

令和 5 年度 薬剤科調剤業務

I. 調剤業務

表 1. 処方箋枚数－外未（単位：枚）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
院外	5,879	5,844	6,423	5,979	6,035	5,771	6,002	5,864	5,954	5,649	5,536	5,678	70,614
院内	282	348	284	364	396	325	368	322	386	348	283	340	4,046
合計	6,161	6,192	6,707	6,343	6,431	6,096	6,370	6,186	6,340	5,997	5,819	6,018	74,660

図 1. 科別処方箋枚数－外未（単位：枚）

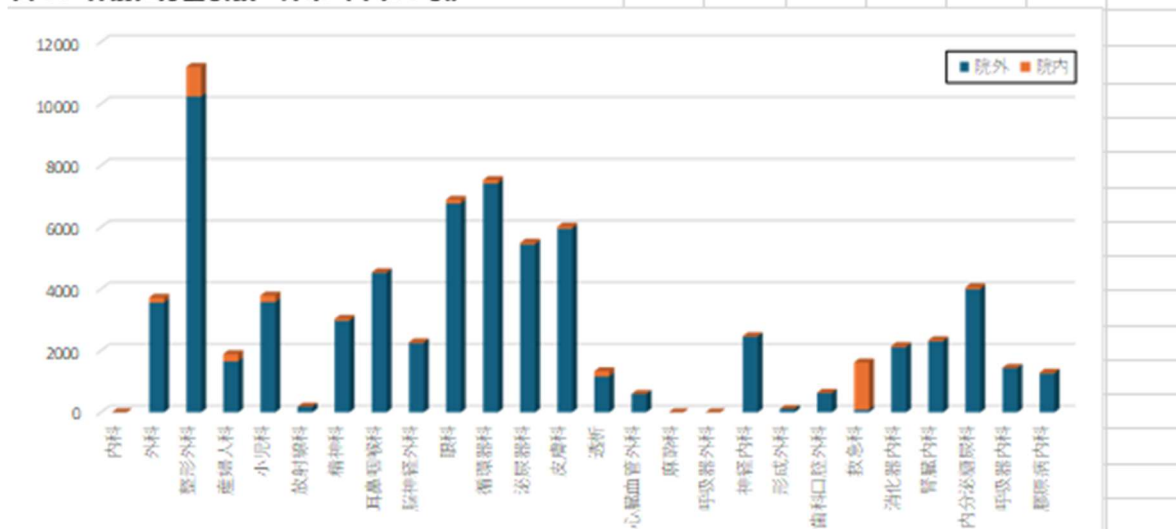
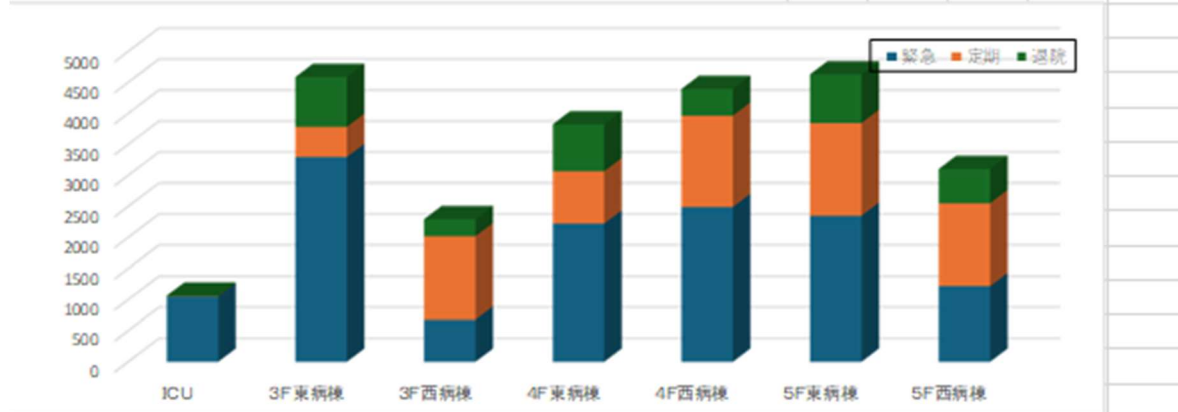


表2. 処方箋枚数—入院（単位：枚）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
緊急	1,093	1,184	1,273	1,159	1,167	1,204	1,047	1,086	1,097	970	1,034	977	13,291
定期	518	533	657	523	656	574	568	685	547	547	582	591	6,981
退院	301	269	304	307	300	325	286	303	357	245	300	324	3,621
合計	1,912	1,986	2,234	1,989	2,123	2,103	1,901	2,074	2,001	1,762	1,916	1,892	23,893

図2. 病棟別処方箋枚数—入院（単位：枚）



Ⅱ. 注射薬調剤業務

表3. 注射箋枚数—入院（単位：枚）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ICU	548	573	376	413	456	613	466	531	422	492	384	464	5,738
3F東病棟	646	720	655	649	729	600	837	707	714	687	626	666	8,236
3F西病棟	23	15	20	12	19	65	34	39	76	47	39	49	438
4F東病棟	850	814	851	991	1,037	1,056	1,311	1,145	1,318	1,273	1,038	964	12,648
4F西病棟	729	736	827	620	988	1,034	837	649	1,066	969	701	946	10,102
5F東病棟	934	1,047	992	1,090	1,107	1,302	1,148	994	952	874	916	991	12,347
5F西病棟	402	353	311	314	270	395	336	413	375	337	364	248	4,118
合計	4,132	4,258	4,032	4,089	4,606	5,065	4,969	4,478	4,923	4,679	4,068	4,328	53,627

図3. 病棟別注射箋枚数—入院（単位：枚）

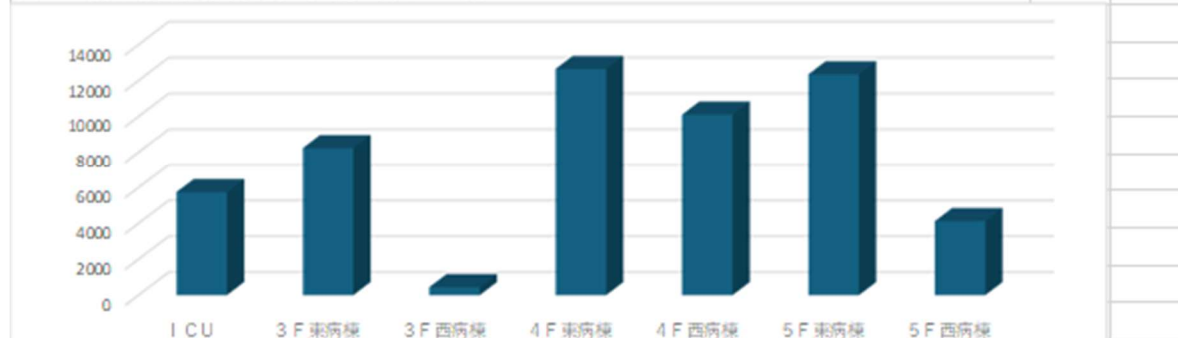


表4. 高カロリー輸液・持続点滴調製数（単位：件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
調製数	668	672	612	671	887	836	842	764	799	693	641	709	8,794

表5. 化学療法調製数（単位：件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	15	28	35	45	26	23	20	14	29	37	47	36	355
外来	218	207	243	244	299	245	226	199	184	210	214	200	2,689
合計	233	235	278	289	325	268	246	213	213	247	261	236	3,044

Ⅲ. 薬歴管理および薬剤管理指導業務

表6. 薬剤管理指導統計表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
指導人数	481	512	548	488	545	539	531	543	530	524	516	528	6,285
実施回数	602	654	713	624	709	682	692	675	695	673	637	661	8,017
退院回数	221	228	277	209	245	260	240	247	288	223	238	247	2,923

Ⅳ. 医薬品管理・医薬品情報管理業務

表7. 新規採用・削除薬品統計表

		院内採用	登録変更 (院内→院外)	院外限定	登録削除
区 分	内 服 薬	12	10	17	5
	外 用 薬	7	8	5	7
	注 射 薬	18	2	9	11
合 計		37	20	31	23

表8. 医薬品情報業務統計表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬品鑑別書数	2	2	1	1	1	1	0	1	0	1	0	0	10
処方変更件数	1,881	2,099	1,696	2,170	1,894	2,361	2,410	1,852	2,251	2,030	1,799	1,842	24,285
問合せ件数	3	1	4	2	5	4	4	7	5	4	6	6	51

Ⅴ. 各種統計一過去年度との比較

	外来処方箋枚数			入院処方箋枚数	入院注射箋枚数	調製数		薬剤管理指導件数	採用・削除薬品数		
	院外	院内	計			TPN 持続	化学 療法		新規	変更	削除
令和2年度	68,189 94.2%	4,204 5.8%	72,393	22,274	47,751	8,141	1,344	6,355	36	12	22
令和3年度	65,014 93.8%	4,278 6.2%	69,292	23,731	48,834	7,231	1,371	6,724	61	21	25
令和4年度	70,076 94.0%	4,440 6.0%	74,516	24,647	51,813	8,861	1,606	6,985	40	10	11
令和5年度	70,614 94.6%	4,046 5.4%	74,660	23,893	53,627	8,794	3,044	9,285	68	20	23

5 令和6年度活動目標

- (1) コロナやインフルエンザ等、罹患しないように、うがい手洗いを徹底し感染防御に努める。
- (2) 病棟薬剤業務、薬剤管理指導業務の更なる充実
- (3) チーム医療の推進、一貫としてNST、ACT、ACT、緩和ケア、褥瘡対策、転倒転落等のチームへの参画、協力
- (4) 薬学部学生への長期実務実習の指導の充実
- (5) 後発医薬品採用数の更なる拡大（数量ベース、価格ベース）
- (6) 薬剤師増員

臨床検査科

1 科長紹介

臨床検査科長 加藤美也子

2 部署別職員数

臨床検査技師 21 名（うち会計年度任用職員 3 名）で検体検査・生理検査をローテーションしながら業務を行っています。

【認定検査技師等有資格者】

認定輸血検査技師 1 名

認定血液検査技師 1 名

細胞検査士 1 名

2 級臨床検査士（微生物・血液・免疫・病理） 4 名

緊急臨床検査士 3 名

超音波検査士（消化器） 2 名

超音波検査士（循環器） 2 名

超音波検査士（体表臓器） 1 名

超音波検査士（健診） 1 名

血管診療技士 1 名

聴力検査士 1 名

JHRS 認定心電図専門士 1 名

特定化学物質・四ア・有機溶剤作業主任者 1 名

山梨県肝疾患コーディネーター 3 名

山梨県地域糖尿病療養指導士 1 名

3 令和 5 年度総括

新型コロナウイルス感染症関連検査について、約 3 年にわたり微生物・免疫部門を中心に対処に努めてきました。分析器の設置を含め検査技術の習得を科内で共有しながら 24 時間途切れることなく検査を実施する体制を整えました。現在もその体制を維持していることで、当院の医療体制維持に大きく貢献していると思っています。

検体検査においては、部品等サポートが終了予定となっていた多項目自動血液検査機器の更新を行いました。処理能力の向上、新機能搭載によりさらに迅速で正確な検査データが可能となりました。また、臨床化学・免疫検査機器の更新に向けて、運用の見直しをはじめ検査項目・試薬等の検討を行い、より迅速で精度の高い検査体制の構築を目指し準備を行なっています。生体検査においては、前年度機器更新を行った超音波検査機器の新技術を含めた運用の拡大を目指し、増加傾向にある各診療科依頼、および健診業務に対応出来るよう整備を行いました。検査機器の整備と並行し多くの技師が、専門的な知識の習得と技術の向上に努め、各種認定資格取得や学会・研修会の参加を行い、日々進化していく医療状況に対応すべく努力しています。

4 令和 5 年度診療実績

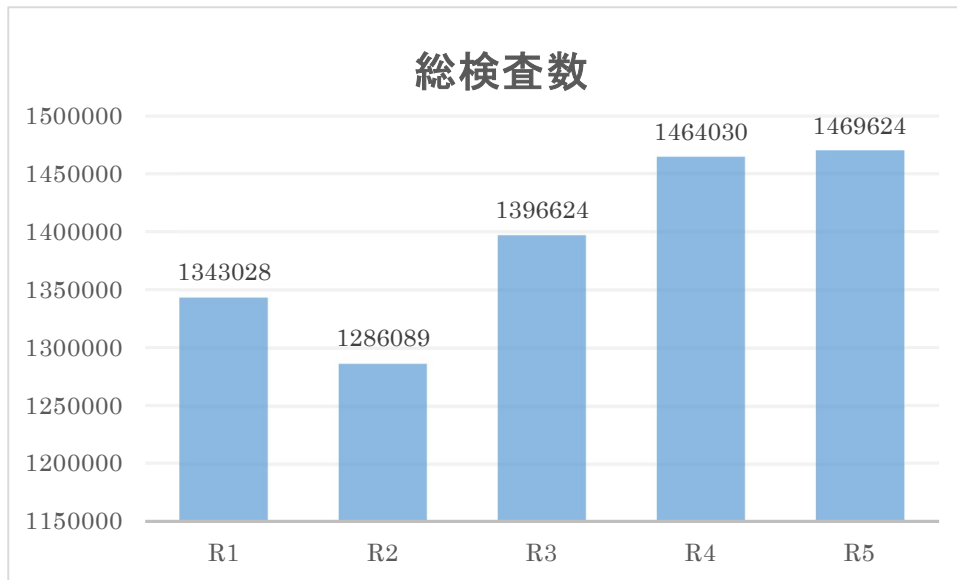
令和 5 年度の総検査件数は、1,469,624 件（院内検査 1,431,507 件、委託検査 38,117 件）でした。

（検査項目件数）

検査項目	総合計
臨床化学	921,298
免疫血清	95,557
薬物血中濃度	323
血液	283,873
凝固	31,612
輸血	6,585
一般・便	42,293
血液ガス	2,962
微生物	20,052
生理	22,338
病理	2,042
細胞診	2,445
迅速病理	64

外注委託検査	38,117
環境検査	63
合計	1,469,624
前年度比	総合計
令和4年度	1,464,030
令和5年度	1,469,624
比較件数	4,793

〈年度別総件数推移〉



【各部門実績】

(1) 検体検査

① 尿・一般検査

全自動尿分析装置と尿中有形成分分析装置の更新に伴い、より効率的な運用を図れるよう検討を行い稼働しました。今後は有形成分分析装置の特性を活かし、更なる効率化を図っていききたいと思います。また尿沈渣、関節液等の鏡検についても適時目合わせを行い統一化を図れたと思います。今後も正確で効率的な検査業務を行えるよう取り組んでいきたいと思います。

② 血液・凝固検査

自動血球分析装置の更新があり、安定稼働に向けて取り組みました。機器更新により24時間安定して検査結果の報告が可能となり、従来の日常業務機よりも処理速度が高いため正確で迅速な結果報告が可能となりました。更なる業務改善に向け取り組んでいきます。血液検査担当者において血液像鏡検の目合わせを引き続き行い、統一化を目指したいです。

③ 臨床化学・免疫検査

生化学では試薬検討を行い4項目の生化免疫試薬を変更し、臨床により一層精度の高い結果報告をする事ができました。また、試薬変更により業務の効率化を図ることができました。

また、昨年度に引き続き生化学・免疫分析装置の機械更新に向けて検討を続け、分析装置の特性や使用方法などを学び試薬や運用面の業務内容について協議を重ねてきました。今後も継続して試薬の検討と新規項目導入についても検討を行っていききたいと思います。

④ 微生物検査

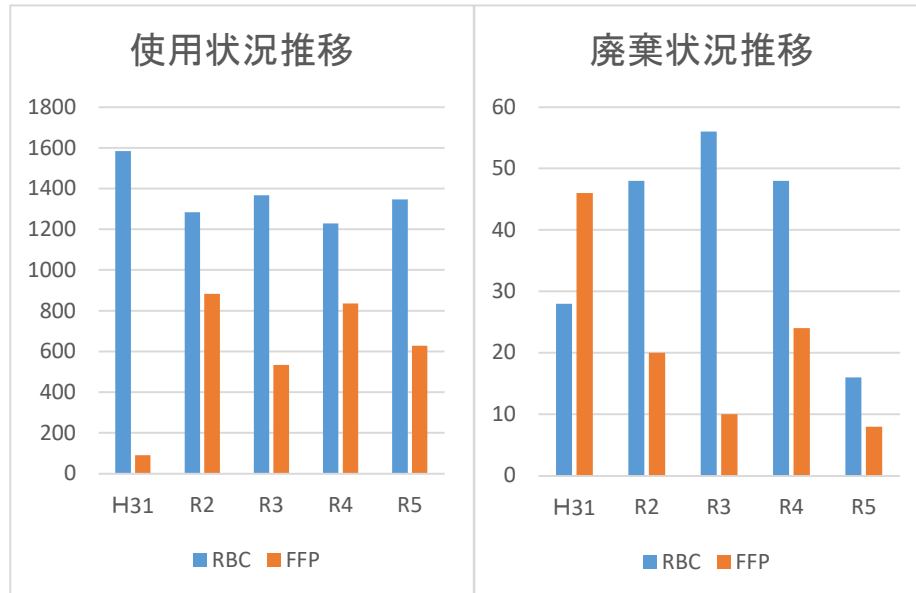
臨床から要望のあった単純ヘルペスウイルス抗原の定性キットについて臨床協力のもと検討を行いました。結核菌培養固形培地の検討も行い、変更しました。昨年度から引き続き人材育成に努めました。今後も検査の精度を保ち、よりよい検査を行える様、日々の業務に臨んでいきたいと思います。

⑤ 輸血検査・輸血管理

24 時間スムーズな輸血検査が行えるように担当者間での症例検討を行い、臨床への迅速な対応や安全な輸血療法へ繋ぐよう意識の統一を図りました。

院内赤血球製剤の在庫単位数についても見直しを行い、廃棄削減のため AB 型赤血球を 2 単位在庫から 1 単位在庫へ変更しました。赤血球製剤の有効期限が 21 日から 28 日へ変更となった事もあり大きな廃棄削減に繋がりました。

輸血療法マニュアルに輸液ポンプ用輸血セットの使用手順を追加・改訂を行いました。また、院内監査を実施し、院内のさらなる統一が図れたと思います。今後も年 2 回の監査に向けて取り組んでいきたいと思っています。



⑥ 病理検査

山梨大学人体病理学協力のもと遠隔術中迅速病理診断を 4 件実施しました。昨年度、術中迅速病理診断の検体受け取りから報告までの流れの見直しを実施したことにより、一連の業務がスムーズに行えるようになりました。外注委託でのコンパニオン診断の検査項目の新規追加があり、臨床からの要望に応えられるよう取り組みました。今後も病理医が診断しやすい標本作製が出来るよう技術の向上に務めていきたいと思っています。

⑦ 中央処置室

昨年度自動採血管準備装置の新機器が導入され搭載採取管を増加することができたため、手張りによる人為的ミスの防止や患者待ち時間の短縮に役立ち日常的にスムーズな業務が行えています。今後も迅速な業務を心掛けると共に接遇態度の向上、業務内容の充実に努力し患者満足度、信頼度のアップに努めたいと思います。

(2) 生体検査

① 生理検査

タスクシフト受講修了者から術中神経モニタリングでの針電極刺入を開始しました。今後はさらに手術準備時間短縮やチーム医療の一助となることを目指しています。昨年度同様人材育成を継続し、勉強会や症例検討会で技師間差を減らすように努めました。今後も臨床側からの要望に柔軟に対応し、質の高い検査情報を的確に報告出来るよう引き続き研鑽していきます。

5 令和 6 年度活動目標

- 令和 6 年度には、生化学・免疫装置の導入を予定しており、迅速かつ精度の高い検査体制と業務の効率化を目指し、検討を進めていきます。
- より経験が必要となる部門での人材育成を令和 5 年度に引き続き進めていきたいと思っています。
- 院内検査の内容及び、新規検査項目導入についての検討を進めていきます。
- コンパニオン診断検査やがん遺伝子パネルを含む遺伝子検査が急速に進み、臨床からの要望や問合せは増加傾向にあります。より専門的な知識が求められるなかで、学会や各種研修会の参加を推奨し日々進化する医療への対応力強化に努めていきたいと思っています。また、科内研修会を更に充実させ、知識・技術の統一化を進めていく予定です。

視能訓練室

1 室長紹介

主幹 小川 綾（認定視能訓練士）

2 部署別職員数

視能訓練士 4 名（うち認定視能訓練士 3 名、臨地実習指導者養成研修修了者 2 名・会計年度職員 1 名：月曜のみ補助）
（女性 3 名・男性 1 名）

3 令和 5 年度総括

今年度 4 月から、岡田医師が大学から戻り大塚医師との 2 診体制となった。新型コロナウイルスが 5 類になったことで、昨年度より外来・入院患者とともに検査件数が増加した。それに伴い手術件数も増加した。

特殊検査の予約を医師に取得して頂くよう変更したことで、視能訓練士が予約取得に要していた時間を検査に集中出来るようになり、患者さんの待ち時間を減らすことが出来た。

見えづらい方々へグッズの紹介などをするロービジョン展示会を、感染対策を徹底し 3 回開催した。岡田医長がロービジョン選定医の資格を有しているため、ロービジョン検査判断料のコストを必要な患者さんへの支援として取らせていただいた。展示会には、視覚障害者手帳をお持ちの方を優先し、少人数制で実施した。ご家族も一緒に拡大読書器や読み上げ機能のある機器などを実際にお試しいただき『今まで読めなかった文字が拡大読書器を使用すれば読めた！』と大変満足の声を聞くことが出来た。今後も視覚障害の方が生活の質を少しでも上げられるようなグッズの紹介を継続していきたい。

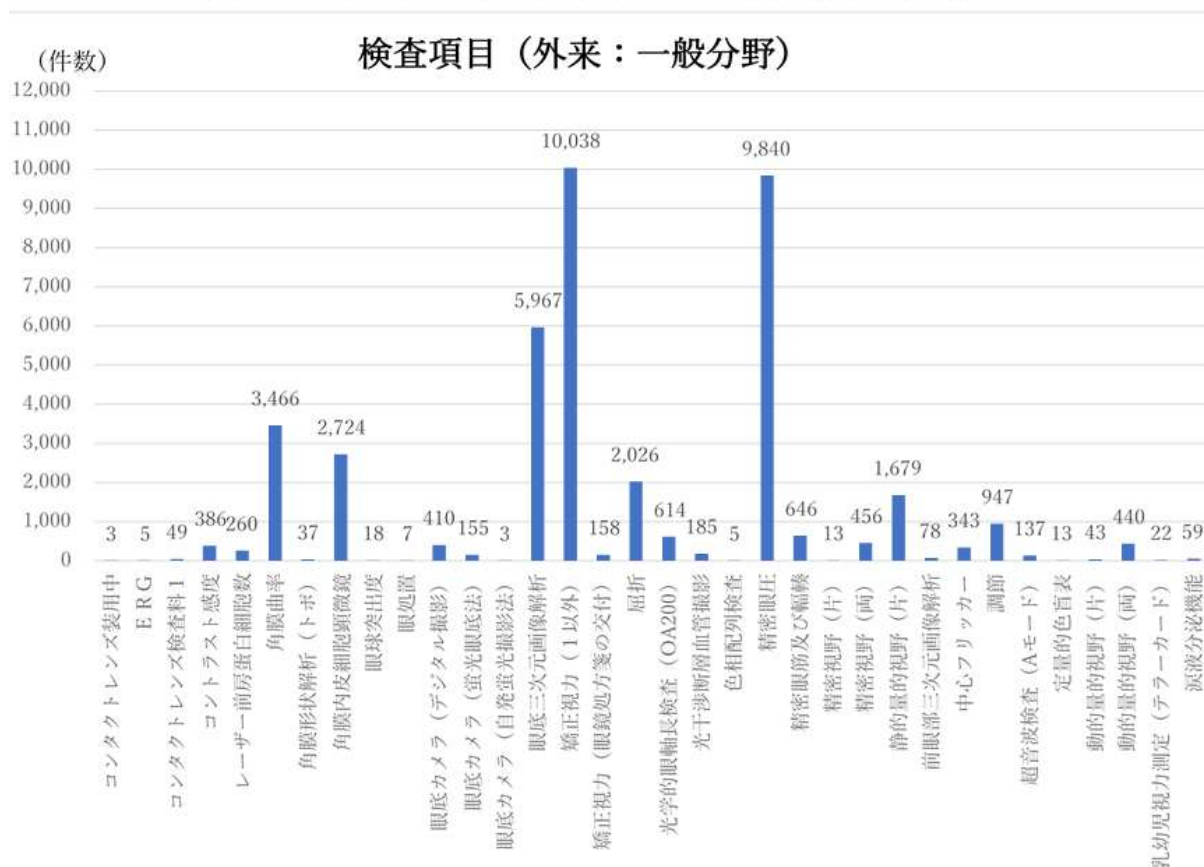
各種学会、勉強会は、現地開催と web 配信のハイブリッド開催となった。現地には行かず、web にて自宅で自分の好きな時間に視聴をすることが出来た。

年度の途中から視能訓練士の 1 人が時短勤務となった。そのため検査人員が不足し、ハンフリー視野・ゴールドマン視野の予約が 3 ～4 ヶ月待ちの状態となったが、常勤視能訓練士 3 名と会計年度職員 1 名で出来る検査内容に調整して日々の業務に対応出来た。

4 令和 5 年度診療実績

視力、眼圧、視野検査等の自科検査が多いのが眼科の特徴であるが、視能訓練士がそれらの検査をすべて行っている。また、斜視・弱視検査、弱視の視機能回復訓練等を担当している。小川主幹を中心として、栗村主幹、井出主査が毎日精力的に業務を行っている。常勤 3 名全員が認定視能訓練士の称号を持ち患者の検査に当たっている。会計年度職員の 1 名には、主に月曜日の視野検査を任せ検査待ち期間を少しでも緩和している。

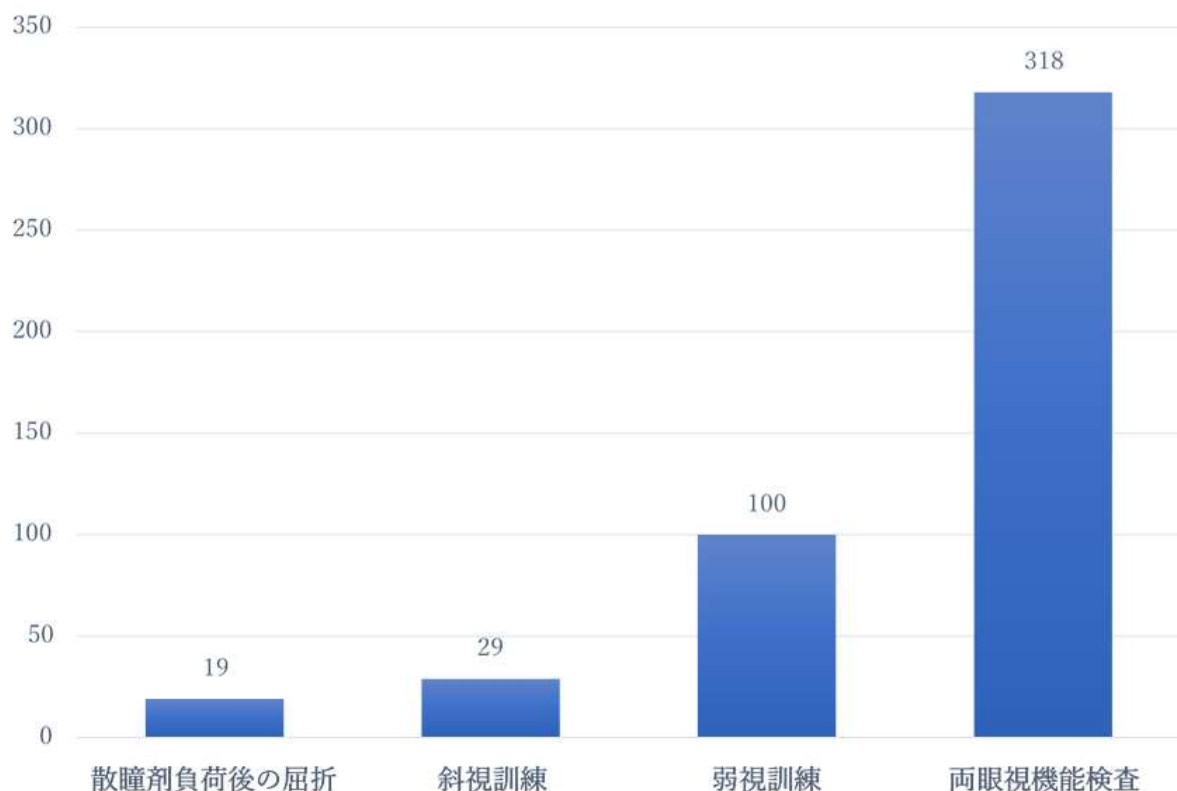
令和 5 年度 視能訓練室 年間検査件数



検査項目	件数	検査項目	件数	検査項目	件数
コンタクトレンズ装用中	3	矯正視力（眼鏡処方箋の交付）	158	動的量的視野（片）	43
E R G	5	屈折	2026	動的量的視野（両）	440
コンタクトレンズ検査料 1	49	光学的眼軸長検査（OA200）	614	乳幼児視力測定（テラーカード）	22
コントラスト感度	386	光干渉断層血管撮影	185	涙液分泌機能	59
レーザー前房蛋白細胞数	260	色相配列検査	5		
角膜曲率	3466	精密眼圧	9840		
角膜形状解析（トポ）	37	精密眼筋及び輻輳	646		
角膜内皮細胞顕微鏡	2724	精密視野（片）	13		
眼球突出度	18	精密視野（両）	456		
眼処置	7	静的量的視野（片）	1679		
眼底カメラ（デジタル撮影）	410	前眼部三次元画像解析	78		
眼底カメラ（蛍光眼底法）	155	中心フリッカー	343		
眼底カメラ（自発蛍光撮影法）	3	調節	947		
眼底三次元画像解析	5967	超音波検査（Aモード）	137		
矯正視力（1以外）	10038	定量的色盲表	13		

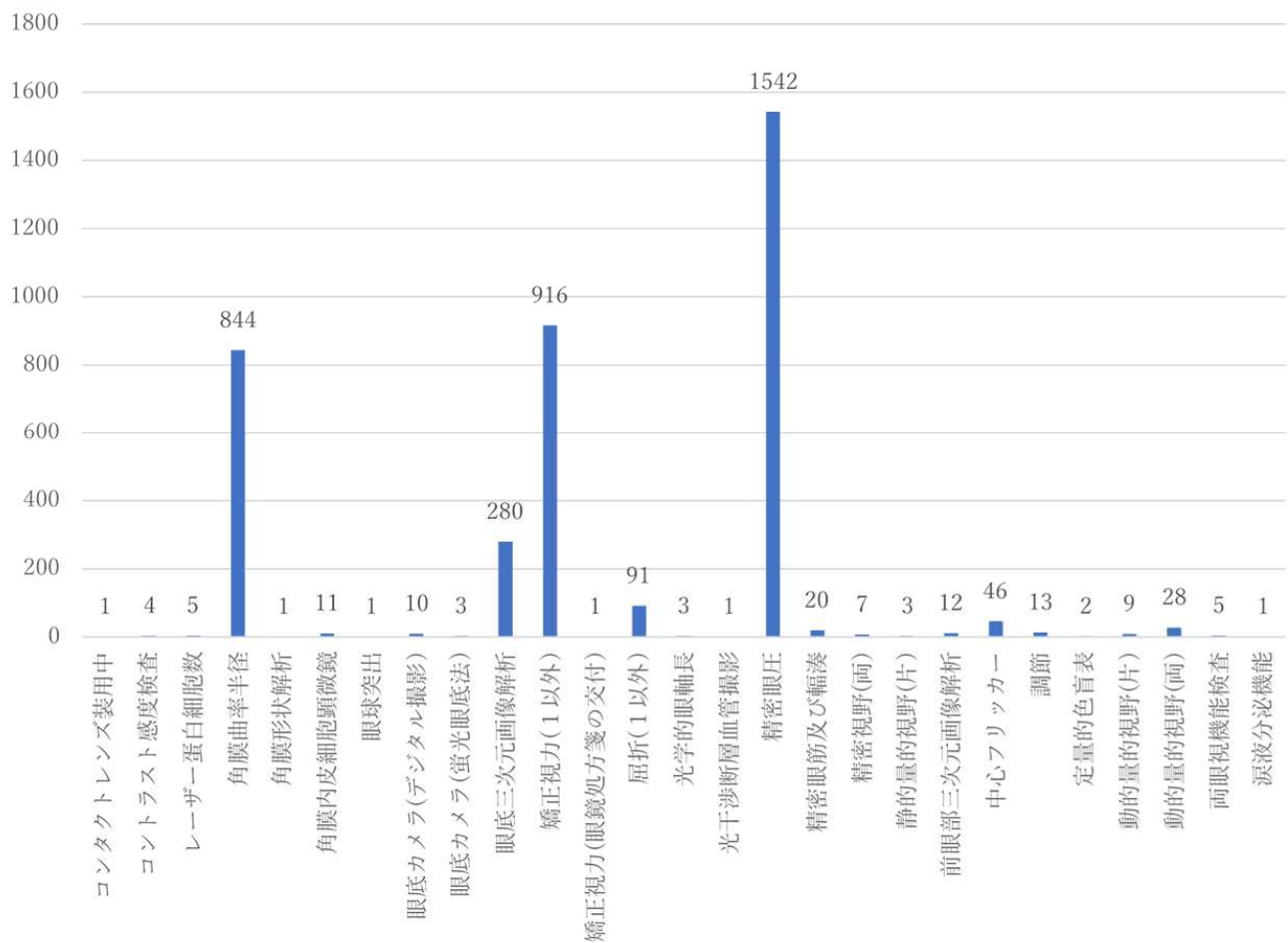
(件数)

検査項目（外来：専門分野）

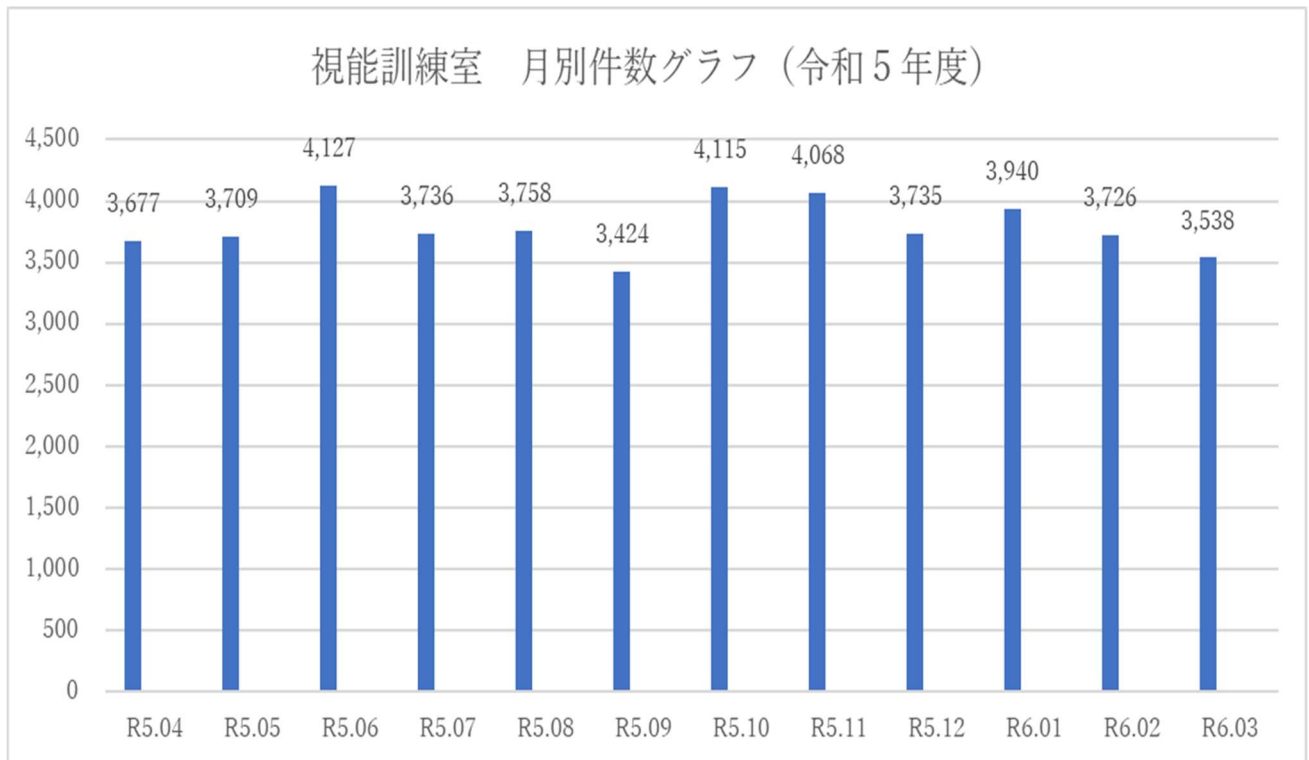


検査項目	件数
散瞳剤負荷後の屈折	19
斜視訓練	29
弱視訓練	100
両眼視機能検査	318

検査項目（入院）



検査項目	件数	検査項目	件数
コンタクトレンズ装用中	1	光干渉断層血管撮影	1
コントラスト感度検査	4	精密眼圧	1542
レーザー蛋白細胞数	5	精密眼筋及び輻湊	20
角膜曲率半径	844	精密視野（両）	7
角膜形状解析	1	静的量的視野（片）	3
角膜内皮細胞顕微鏡	11	前眼部三次元画像解析	12
眼球突出	1	中心フリッカー	46
眼底カメラ（デジタル撮影）	10	調節	13
眼底カメラ（蛍光眼底法）	3	定量的色盲表	2
眼底三次元画像解析	280	動的量的視野（片）	9
矯正視力（1以外）	916	動的量的視野（両）	28
矯正視力（眼鏡処方箋の交付）	1	両眼視機能検査	5
屈折（1以外）	91	涙液分泌機能	1
光学的眼軸長	3		



5 令和6年度活動目標

- (1) 新人視能訓練士の教育・研修に積極的に参加し、レベルアップを図る。
- (2) 視野検査の稼働率を上げ、検査待ち時間を解消する。
- (3) 全員が認定視能訓練士となり、日々の診療に役立てる。
- (4) 臨地実習学生の受け入れを積極的に行う。
- (5) 視能訓練士実習施設指導者等養成講習の受講を積極的に受講し、臨地実習に備える。

放射線技術科

1 科長紹介

放射線技術科長 相川浩史

2 部署別職員数

診療放射線技師 14 名（会計任用職員 1 名含む）（男性 10 名 女性 4 名）

3 令和 5 年度総括

- (1) コロナが 5 類に引き下げられたが、発熱者対応は継続している。装置の更新・新設などにより業務量は増えているが対応できた
- (2) 従事者への被ばくについての啓蒙
- (3) 管理区域内の放射線管理の見直し
- (4) 放射線防護具の管理・配置等の見直し
- (5) 装置の老朽化による故障があり、患者さんにご迷惑をかけてしまった

4 令和 5 年度診療実績

放射線技術科・撮影件数（令和 5 年度）←

		05 年										06 年			合 計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
X 線一般	マンモグラフィ	50	53	70	66	63	64	74	73	75	52	45	61	746	
	長尺撮影	29	21	25	27	32	24	32	29	33	24	22	31	329	
	検 診	149	320	205	161	1010	606	189	157	124	76	144	94	3,235	
	X線一般	1,295	1,451	1,564	1,400	1,522	1,433	1,490	1,502	1,450	1,518	1,378	1,449	17,452	
	G・M	1	0	2	0	3	0	0	2	1	0	0	0	9	
小 計		1,524	1,845	1,866	1,654	2,630	2,127	1,785	1,763	1,683	1,670	1,589	1,635	21,771	
X 線 T V		104	124	131	137	110	94	82	100	61	66	76	59	1,144	
消化管造影透視		18	38	15	22	26	22	15	7	22	13	20	13	231	
頭 腹 血 管		17	10	24	14	10	17	18	7	23	11	10	19	180	
心 血 管		14	22	23	18	16	22	14	17	20	19	25	17	227	
C T		764	744	832	750	802	750	776	789	806	808	729	795	9,345	
C B C T		55	34	52	53	46	49	37	65	65	40	50	60	606	
M R I		388	377	438	354	407	416	441	416	395	386	378	405	4,801	
放 射 線 治 療		129	254	214	220	108	186	142	102	161	111	159	120	1,906	
骨 密 度 測 定		26	37	48	45	53	41	50	35	39	50	41	48	513	
救 急 X 線		57	83	49	84	107	83	65	86	68	70	59	72	883	
救 急 C T		14	11	13	21	19	21	21	12	24	17	18	17	208	
O P E 室 イメージ		34	40	36	37	32	36	43	40	33	31	43	39	444	
ポータブル	ポータブル	164	171	170	156	163	172	227	169	173	117	119	101	1,902	
	OPEポータブル	37	37	54	43	41	46	51	37	43	43	47	49	528	
	ICUポータブル	67	54	55	50	50	55	64	38	34	50	43	49	609	
	CDR作成	205	167	181	195	183	177	174	184	173	158	189	176	2,162	
持込CDR		159	189	167	155	184	145	199	171	183	173	179	177	2,081	
E S W L		2	2	4	0	1	1	3	1	2	3	2	1	22	
合 計 件 数		3,778	4,239	4,372	4,008	4,988	4,460	4,207	4,039	4,008	3,836	3,776	3,852	49,563	

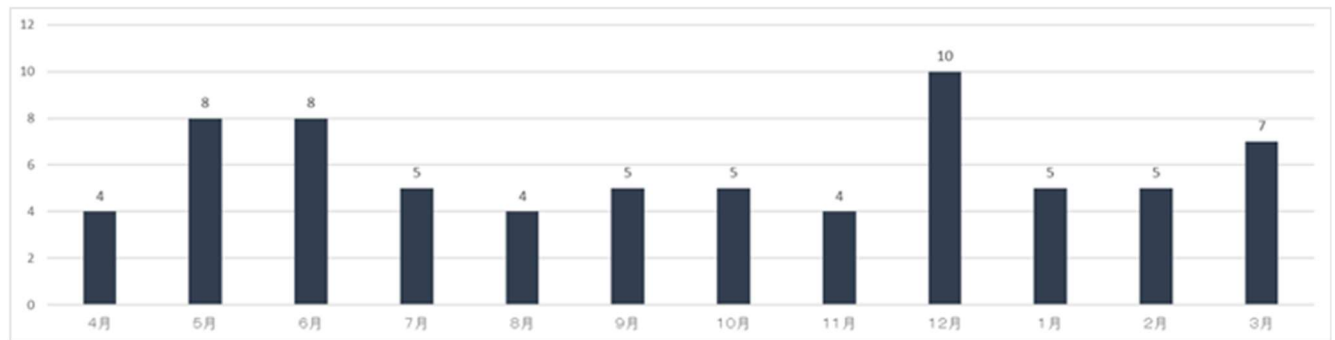
放射線技術科月別件数グラフ（令和 5 年度）←



オープン検査総件数（令和 5 年度）←

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	全体比
CT	1	3	3	1	1	1	1	0	2	0	1	3	17	
MR	3	5	5	4	3	4	4	4	8	5	4	4	53	
合計(件)	4	8	8	5	4	5	5	4	10	5	5	7	70	

オープン検査・CT・MRI（令和5年度）←



5 令和6年度活動目標

- (1) 装置の稼働率を上げていく。
- (2) 装置の更新等を適時検討していく。
- (3) 被ばくについての啓蒙・管理を継続する。
- (4) 自己研鑽に励む。
- (5) 医療機器やヒューマンエラーによる医療事故を起こさないようにする。
- (6) 院内感染の媒体とならないように機器等の消毒、及び自己の標準予防策を徹底する。

臨床工学科

1 科長紹介

臨床工学科長 後藤保志

2 部署別職員数

臨床工学技士 8 人 （男性 6 人 女性 2 人）

【保有資格】

- (1) 透析技術認定士 4 人
- (2) 3 学会合同呼吸療法認定士 4 人
- (3) 呼吸治療関連専門臨床工学技士 1 人
- (4) 臨床 ME 認定士 1 人
- (5) 心血管インターベンション技士 2 人

3 令和5年度総括

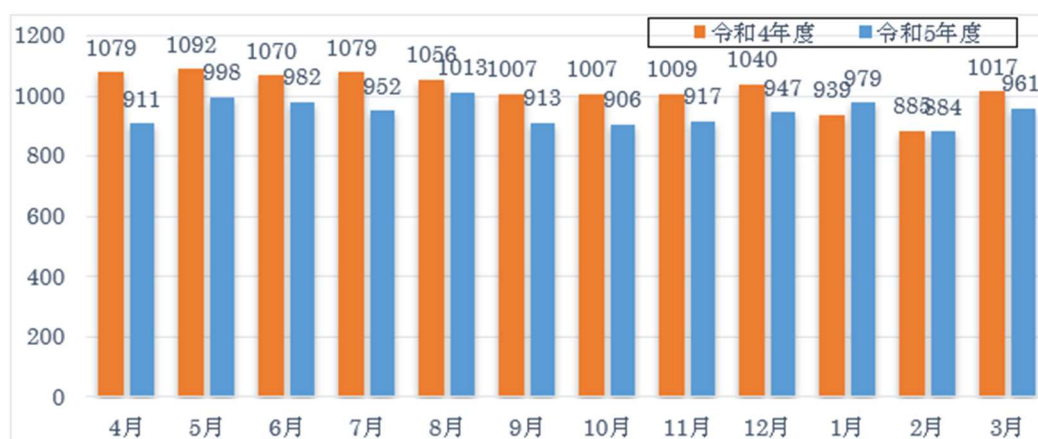
血液浄化業務については昨年に比べ、透析件数は減少傾向であった。センター内の工事のため患者数を減らしていることも影響していると思われる。災害対策として他施設との連携を密にし、LINE や band アプリにより連絡方法の冗長性が上がった。

呼吸器業務については、在宅人工呼吸器、ASV、CPAP の入院時チェックリストを作成した。神経内科で使用されるヴィアレブ専用ポンプの発注業務が追加された。

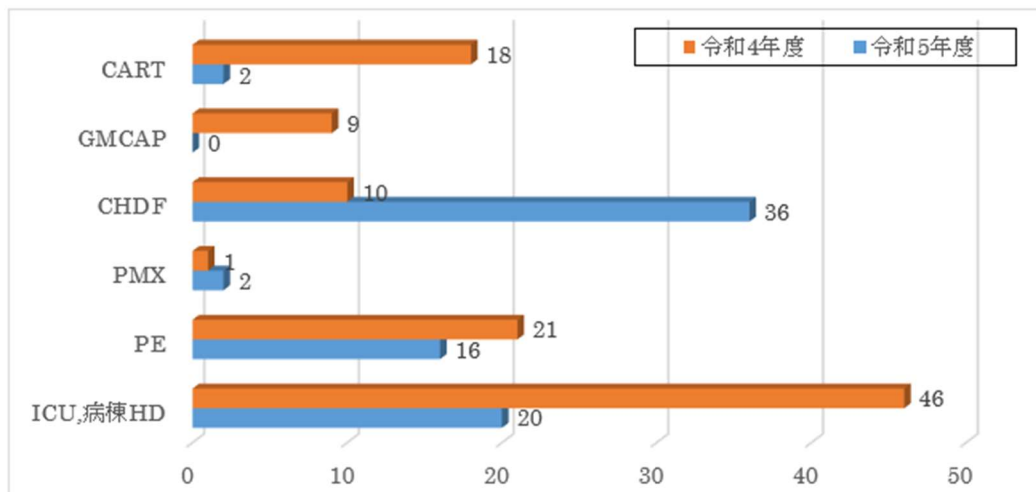
人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、除細動器の定期点検を実施した。

4 令和5年度診療実績

- (1) 月別透析患者数



(2) 特殊な血液浄化



5 令和6年度活動目標

- (1) 手術室でのナビゲーションシステム操作が業務に追加されたため、マニュアル作成していく。
- (2) 血液浄化センター内に新たに個室が出来るため、シミュレーション通してマニュアル作成していく。災害対策として自施設の患者宛にメール送信を行う。また、多施設との連携訓練を行う。
- (3) 有事に備えて、透析溶解装置の緊急溶解操作の体験を行う。
- (4) ペースメーカー遠隔管理に今後関わる準備として、ペースメーカー外来の見学を開始する。
- (5) MACT（モニター監視チーム）の一員として運用開始に携わる。

リハビリテーション技術科

1 科長紹介

リハビリテーション技術科長 天野 めぐみ

2 部署別職員数

理学療法士 17名

作業療法士 12名

言語聴覚士 3名

(男性 18名 女性 14名 合計 32名)

3 令和5年度総括

作業療法士1名、言語聴覚士1名増員し稼働。時期により患者数の増減があるが、全体的に患者数は増加してきている。

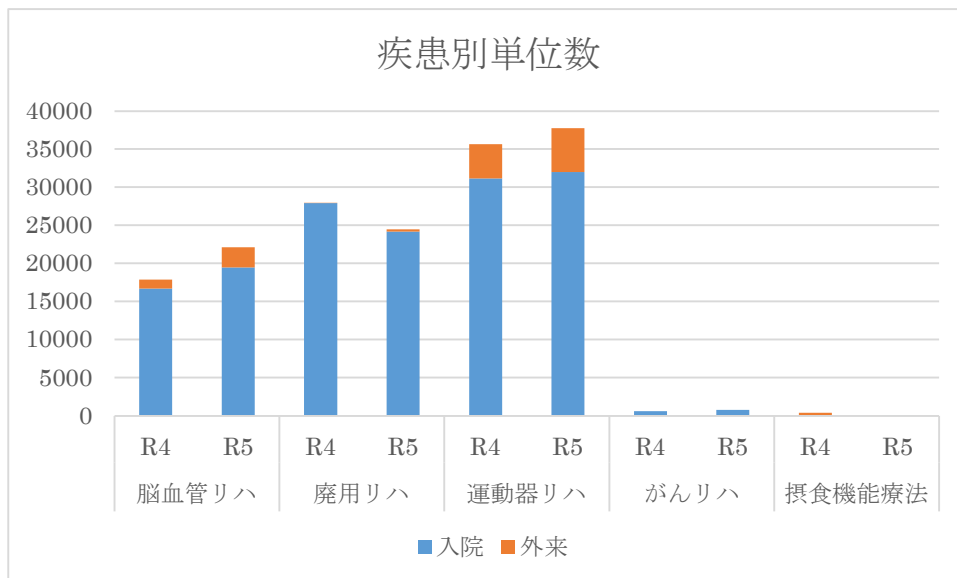
長期研修や休暇により一時的にスタッフが少なくなってしまった時期があったが科内各担当で調整し業務遂行することができた。

医療リンパドレナージセラピストの資格を2名取得することができ、今後、リンパ浮腫外来開始に向けて他部署と準備をすすめてきている。

4 令和5年度診療実績

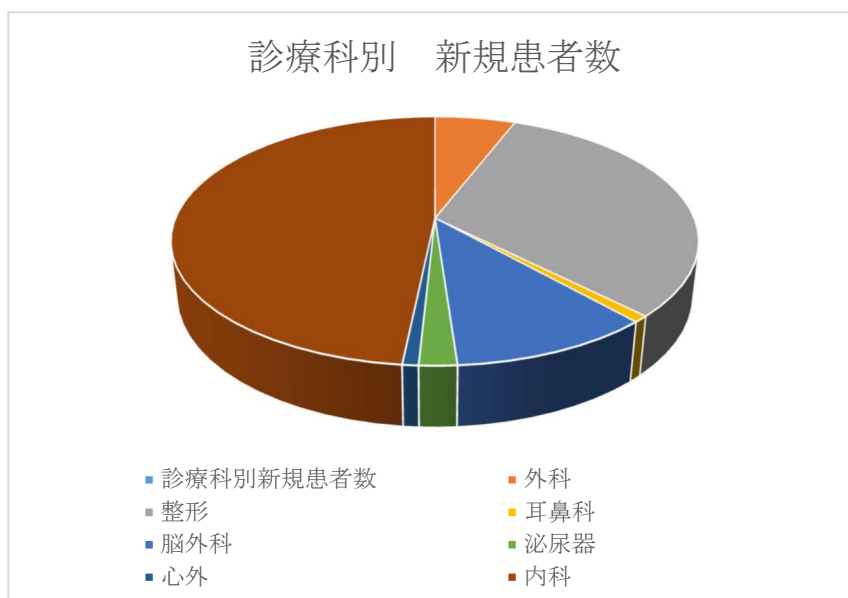
- (1) 疾患別リハビリテーション 年間総実施単位数

		脳血管リハ	廃用リハ	運動器リハ	がんリハ	摂食機能療法	合計
入院	R4	16697	27912	31131	609	88	76437
	R5	19450	24178	31976	767	277	76648
外来	R4	1150	31	4490	0	8	5679
	R5	2646	265	5749	0	0	8660
合計	R4	17847	27943	35621	609	96	82116
	R5	22096	24443	37725	767	277	90776



(2) 診療科別 新規患者数

外科	整形外科	耳鼻科	脳外科	泌尿器	心外	内科
171	924	24	306	57	24	1410



5 令和6年度活動目標

- 回復期病棟患者の一人あたりの実施単位数の増加と、一般病棟・地域包括ケア病棟の安定した実施単位数の獲得を目指す。
- リンパ浮腫外来の運用方法を構築し実施していく。
- 診療上、患者との距離が近く比較的長い時間接するため感染予防対策を継続する。感染の媒体にならないよう配慮し、安定した診療が提供できるようにスタッフの健康管理にも注意していく。

栄養管理科

1 科長紹介

主幹 宮下 明子（管理栄養士）
主幹 鈴木 亜津美（管理栄養士）

2 部署別職員数

管理栄養士 3 名（うち NST 専門療法士 1 名、日本糖尿病療養指導士 1 名、山梨地域糖尿病療養指導士 2 名）
栄養士 1 名（会計任用職員）
（女性 4 名）

3 令和 5 年度総括

栄養管理科の業務は主に①入院患者の栄養管理に関すること②入院患者の給食管理に関すること③入院・外来患者への栄養指導・相談④NST 活動等のチーム医療の参加し治療に貢献していくことである。

入院患者の栄養管理業務は、2022 年 4 月から診療報酬改定により褥瘡対策に関する診療計画書作成患者にも栄養管理計画書の作成が必要となり、他職種と連携し栄養スクリーニング・アセスメント・栄養管理計画書を作成している。

栄養指導は、2020 年度より新型コロナウイルス感染症対策が必要となったが、指導件数を減らすことなく実施に取り組んでいる。

チーム医療は、毎週月曜日緩和ケア回診、毎週火曜日 NST 回診、毎週木曜日褥瘡回診に参加している。

4 令和 5 年度診療実績

(1) 栄養指導件数 令和 5 年度月間件数

栄養指導件数		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
入院	算定	25	19	26	25	28	33	14	23	26	21	28	22	290
	非算定	0	2	2	0	1	2	0	0	3	0	0	0	10
外来	算定	46	33	39	32	38	26	31	35	37	31	34	41	423
	非算定	1	1	1	2	1	0	1	0	1	2	1	1	12

(2) 栄養指導件数 2014 年度～2023 年度年間件数

栄養指導件数		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
入院	算定	303	283	256	343	365	302	267	275	248	290
	非算定	10	15	5	9	2	11	6	11	17	10
外来	算定	109	129	132	274	396	381	408	431	406	423
	非算定	1	10	2	6	1	14	3	7	41	12
合計		423	437	395	632	764	708	684	724	712	745

5 令和 6 年度活動目標

- (1) 医師の指導の下に依頼を受けた栄養指導を患者さん一人一人の生活状況に考慮しながら指導をしていく。
- (2) 外来で入院決定された患者に対し、入院支援と連携し患者の食物アレルギーの確認、食事摂取状況の確認等を実施していく。
- (3) 入院患者の栄養アセスメントを行い、低栄養患者は NST を検討していく。
- (4) 栄養士臨地実習学生の受け入れを積極的に行っていく。